

令和2年度 事業報告書

【法人本部】

令和2年度は中長期事業計画2020の最終年度であり、前年度に取得した事業用地の活用などの法人の方向性を明確にする活動的な年度を計画していたが、前年末から拡大した新型コロナウイルス感染症の対策に追われた一年となってしまった。

年度末には、行政による全職員を対象としたPCR検査で職員1名に陽性結果が出たが、当該職員は無症状で重症化することもなく、施設も保健所などの指導のもと、職員の意欲的な取り組みと、ご利用者ご家族のご協力により感染を拡大させることなく対応することができた。また、年間を通して法人・施設とも計画していた行事のほとんどを中止にせざるを得ず、行動制限等により職員ご利用者だけでなくご家族にもストレスやご負担を掛けてしまいがちながらも、ご理解とご協力を得ながら大過なく施設運営ができた。

また財務面では、交付金等の手続きを遺漏なく行って高騰する消耗品も不足無く揃えながらも可能な限り経費も抑える事ができた。

しかし、未だに感染拡大は収束せず先の見通しも立たない状況であることを踏まえ、持続可能な法人経営のためにBCP(事業継続計画)の策定、人材確保と生産性の向上、収益の確保と財務基盤の強化を最優先に進めることが必要である。

【高齢者福祉部門】

令和2年度は新型コロナウイルス感染症に翻弄された試練の一年でした。このような不条理な状況も受け止めて、今までと変わることなく粛々と介護・支援を行う職員と、ご理解ご協力くださるご利用者ご家族にあらためて感謝いたします。

この感謝の気持ちを忘れずに、法人理念の具現化に努めていく。

ケアハウス シャトーおおるり

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により入居者の一番の楽しみである外出行事や毎週の買い物などが全く行えず、代替策として職員がマンツーマンで付き添う少人数グループでの外出を数回行うことで対応した。入居者の満足度はそれほど高いものではないと思うが、コロナ禍での施設運営の苦勞を入居者も理解され、結果として入居者と職員の関係性が深まったことは、今後の施設運営にプラスとなると思う。マイナス面としては、職員の業務負担増と感染リスクの軽減を考えて認知症や自立度の低下した入居者を積極的に介護施設等への転居を進めたことで稼働率の低下に拍車をかけてしまった。今後の対応としては、未だ目に見える成果は少ないが、今年度から取り組んでいる生活保護受給者や虐待ケース等の住居の確保や経済的な問題のある方の受入についての行政機関等へのアプローチを継続していく。

特別養護老人ホーム おおるりの森

令和2年度はデイサービス・ショートステイ・特養ともに花壇や野菜作り、創作活動や調理など暮らしの中で生き甲斐や喜びを感じられる場面作りに重点を置き取り組んで参りました。コロナ禍で面会や外出制限を余儀なくされる中、前向きな意欲に応える取り組みや他者と共同して行う活動機会は寂しさや不安の緩和にも繋がったのではないかと思います。また、家族との文通やメールでの写真送付等を積極的にを行い、本人家族共に大変喜んでいただいております。

職員におきましては感染症予防対策について全ての職員が標準的な対処技術を習得できるよう繰り返し研修を実施してきました。次年度においても重点課題として取り組みを継続し集団感染の予防に努めて参ります。

事故発生状況では外傷事故や入院等は発生しませんでした。昨年同様、服薬忘れが目立つ結果となり次年度も引き続き課題といたします。

【苦情相談2件】

- ・家族より面会時、3回続けて同じ衣服を身に着けている。本人が選んでいるとしても他にも衣類があるので、別の服も着せてほしい。(特養)

配慮が欠けていたことを謝罪し、本人が衣類を選びやすいよう収納方法を変更した。

- ・女性入居者就寝時に男性入居者が居室に入ってきたため大声を出したところ、顔を5回たたかれた。怖さと不安が続いている。どうしたらよいか教えてほしい。

男性入居者は認知症があり入居後日が浅く混乱している状況を説明。今後は就寝時に居室を施錠し、もしドアから音が聞こえたらナースコールを押していただくことを提案し、了承を得た。

【障害福祉部門】

新型コロナウイルス感染予防対策を講じる中、日中活動のゾーニングを進めざるを得なかった。活動や作業提供に制約が発生したが、ご利用者・ご家族のご理解・ご協力を得ながら日中支援の充実化を図り、生活介護支援や就労継続支援における利用者の社会参加を一步前進させることが出来たと考える。

障害者支援施設ひばり

新型コロナウイルス感染予防の観点から、短期入所、日中一時支援事業を一部制限せざるを得なかった。入所ご利用者にも外出の制限が発生する等、ご利用者全体に多大なご不便をお掛けした1年となる。

そのような中、感染予防対策を進めながらも日中活動の充実化を図り、年間で8つのアート公募展に出品する等、利用者の社会参加の促進に努めた。次年度においても様々な制限が継続されることが予想されるが、さらなる工夫を進めていきたい。

就労継続支援B型事業所ひばり

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、イベント販売がすべて中止となるなどの影響があったが、藍関連の新たな作業の導入や販売先の拡大などの工夫により、平均工賃月額が前年度23,139円のところ、令和2年度は、25,086円と大幅にアップすることが出来た。

また、陶芸商品の試作をするなど新しい商品開発にも積極的な取り組みを行っている。商品開発の取り組みは次年度にも繋げていく。

グループホームつぐみ

高齢化や障害支援区分が高くなるなど支援上の難しさが増していることもあり、昨年度に引き続き2名の空床となっているが、収入は重度化により増収となっている。

新型コロナウイルス感染防止のため、ご利用者の余暇時間の過ごし方に様々な制約が発生し、そのストレスへの配慮が必要となった。日々のコミュニケーション支援をより丁寧に進めるとともに、イベントを企画する等の工夫も進め対応した。

サポートセンターひばり

新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問、面接を控えざるを得ない期間もあったが、電話を中心とした対応の工夫を進めることなどで、相談支援の充実化を図った。また、感染対策を取りながら新たなケースの受け入れも進め、地域にあるニーズに対応した。